

心理的支援と学習支援のコラボレーション


経済学部講師 角田 真紀子

本学の学生相談室は、どんな悩みや相談でも受ける「よろず相談」のスタンスで、ガイダンス機能とカウンセリング機能を持ち、見立て、環境調整、リファーマンなどあらゆることを行っている。近年は、学生はもとより、教職員や保護者からのニーズも年々増え、またその内容も複雑になってきており、特にここ数年は学生相談室が超過稼働する傾向もあった。そのため2016年度より予約の枠組みを調整して超過を減らし、カウンセラーはいわゆる心理的カウンセリングを中心に担当し、各学部の履修の仕方や学習支援等ガイダンス・カウンセリングが中心となるものについては学生相談室員が対応するという分担をしている。各担当とそれぞれメインに行っている支援と機能のイメージを(図1)に示した。

学生相談室ではカウンセラーが心理的支援としての学生相談を行い、学生相談室員が学習支援を行う。ケースによってはこれを別の教員が担当することもある。図示はしていないが、法学部では、大学院生がアカデミック・コンシェルジュとして、学部生の学習支援にあたっている。他にも、例えば資格課程では教職相談として、現場経験者が教職に特化した相談を受け、就職課やキャリアデザインセンター事務課、エクステンションセンター事務課などでは、就職やキャリアなど将来に関する相談を受けている。また、法律相談や保健室での相談等さまざまところでも公式・非公式に相談を受けているが、この図では割愛する。

学生からのニーズがあった場合にはそれぞれが得意とする支援を行うが、先ほど述べたように問題が複雑な場合や、履修など学習に関することがメインである場合、あるいは学生本人からの申し出ではなく教職員や保護者が当該学生に何らかの支援をする必要があると考えた場合は、たいてい学生相談室は他と連携の形を取るようになる。

例えば、教員が、ゼミや資格課程の所属学生について異変や問題を感じた、あるいは実際に問題が生じたので相談に来た場合を考えてみると、当該学生本人には問題の自覚があったりなかったりするので、教員がコンサルテーションを受け今後の対応策を協議したり、学生を学生相談室につな

担当	メインとなる支援	機能
就職課	就職・キャリア支援	ガイダンス 
エクステンションセンター事務課 キャリアデザインセンター事務課	(ex.就職相談)	
資格課程	資格取得支援	
担当教員	(ex.教職相談)	
各学部	学習支援	カウンセリング
担当教員	(学習相談)	
学生相談室員	心理的支援	
学生相談室	心理的支援	カウンセリング
カウンセラー	(学生相談)	

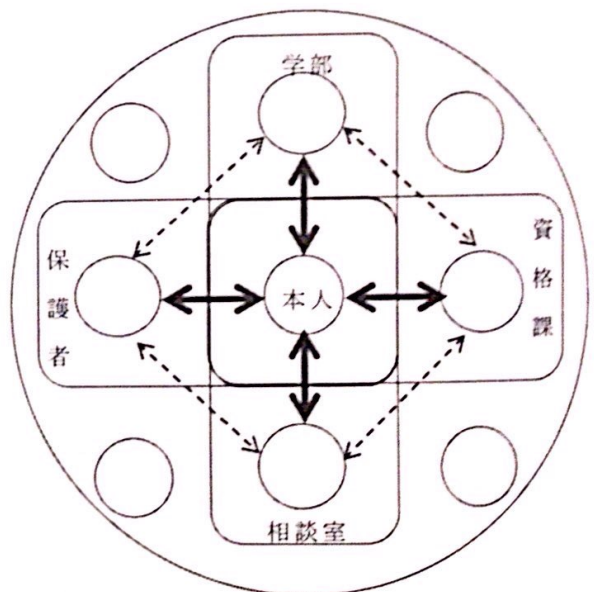
(図1) 各担当とメインとなる支援と機能のイメージ

いだりすることになる。学生が来室し、特にやる気が起きず、低単位取得などの問題を抱えている場合は、カウンセラーが、学生の精神状態の把握や現状理解をしながら問題の整理と心理面でのケアを行い、必要であれば保護者に連絡を取ったり、連絡を取ってもらうよう教員に依頼したり、医療機関受診を勧めたりするなどの支援を行う。教員はカウンセラーと連絡を取りながら、学生の具体的な動き方を一緒に考えていく支援を行う。この場合、学生相談室員が担当をすることもあるし、ゼミや資格課程などの担当教員が担当することもあるし、両者が連携して担当することもある。

低単位取得に加え登校しぶりなどで大学に足が向きにくくなっている場合は特に、家庭での安全・安心感の確保に加えて学部教員との関係づくりが重要となる。これは単に教員との顔つなぎだけにはとどまらず、学部への所属感、現実検討と見通しを持ち、本人が理屈ではなく実際に動けるようになる支援につなげるためであり、その意味でも学習支援は大事な機能を持っている。また学外実習機関などでのトラブルで、学生の動きや状態が分かりにくい場合は、これまで関わってきた教職員や実習機関との連携によって事実確認や本人理解を行うなどして対応していくことになる。

このように、学習支援は連携を伴って臨機応変に行われる(図2)。図2は上下を表しておらず、平面である。この図では、4つの担当が、それぞれ連携を取りながら学生を支えている。必要に応じてどこかの担当が前面に出ることもあれば、背景に下がることもある。資格課程が就職課に変わることもあれば、部活動に変わることもある。い

ずれにしても、大学全体で役割を緩やかに分担しながら学生を支援していくということが言える。その中でも学習支援は、先ほど述べたように大学生活の基盤への支援となるため重要である。カウンセラーはさらにそれを下支えする心理的支援を行い、セーフティネットの役割も果たす。学生相談室は、「よろず相談」で様々なニーズに対応するために、カウンセリング機能としての心理的支援とガイダンス機能としての学習支援を適切に行いながら、窓口あるいはつなぎ役としても機能している。この連携によって、細かな支援が可能となっている。



(図2) 連携のイメージ